

令和4年度 洲本市 認知症地域支援推進員活動報告

認知症地域支援推進員について

- 1 認知症地域支援推進員:1名
- 2 認知症地域支援推進員の役割:認知症になっても住み慣れた地域で暮らし続けることができるよう本人や家族の視点に立った地域づくりをすすめる。

認知症初期集中支援チームによるサポート

すもとオレンジライフサポート
(認知症ケアパス)の普及・啓発

医療・介護
との連携

- ・かかりつけ医、認知症疾患医療センター、専門医との連携
- ・脳いきいき相談による早期介入
- ・介護保険サービスの利用支援
- ・認知症予防健診でリスクのある人へのフォロー

本人・家族
支援

- ・認知症の相談窓口の普及・啓発
- ・認知症をささえる家族の会・家族介護者への支援
- ・若年性認知症相談支援、本人ミーティングの開催
- ・認知症高齢者等の見守り・SOSネットワークの周知、啓発、登録の推進

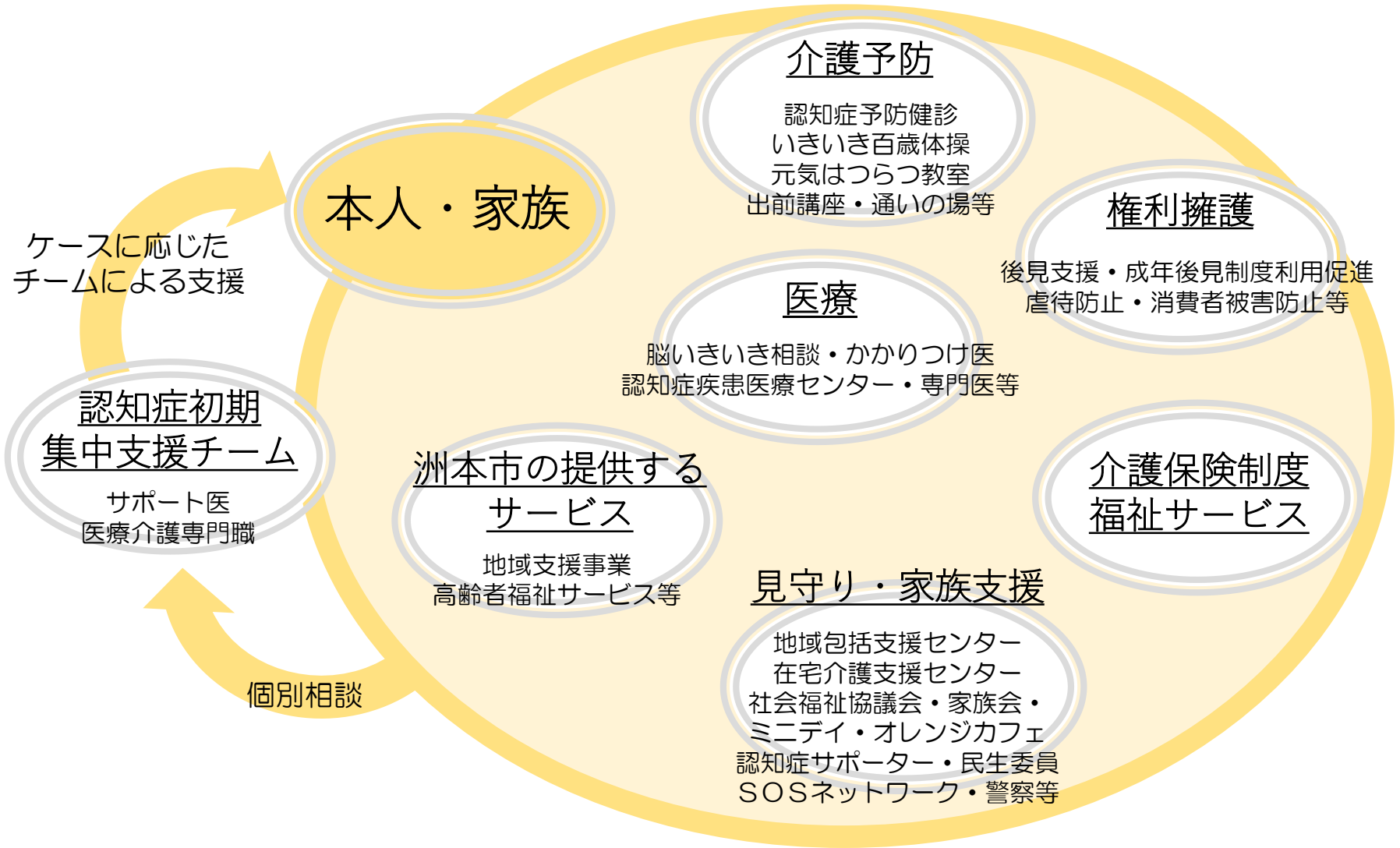
認知症に
やさしい
地域づくり

- ・認知症への理解を深めるための普及啓発（広報掲載、出前講座、認知症サポーター養成講座、図書館での関連図書コーナー設置等）
- ・認知症サポーター・チームオレンジ活動支援
- ・認知症になってもGENKIすもと（官民連携）協議会

報告者氏名:洲本市地域包括支援センター：岡田 香苗
洲本市介護福祉課長寿支援係：安東 美鈴

【洲本市】認知症施策全体図

すもとオレンジライフサポートに沿って、認知症の状態に応じた支援や医療・介護サービスにつながることができるようサポートしています



洲本市におけるチームオレンジ活動に向けた取り組み

<取り組みを始めるまでの経緯>

認知症サポーター養成講座受講者：累計3,879名。内、認知症サポーター活動登録同意者159名（R2年3月末）

具体的な活動について働きかけのないまま、認知症サポーターまかせになっていた。

<市の認知症施策担当者及び認知症地域支援推進員の思い>

チームオレンジ活動のイメージがわからない……



洲本市での認知症の方やその家族にやさしい地域づくりに向けて、チームオレンジの活動って、どんな活動？！

キャラバンメイト連絡会でチームオレンジについて情報提供、今後の推進について相談。
⇒認知症サポーター自身が、日々見聞きしたり活動する中で感じている思い、困っていること、やりたいと思っていること等集まって話をしてみてもどうか。

認知症サポーター交流会

洲本市におけるチームオレンジ活動に向けた取り組み

< 取組の経過 >

令和2年10月 第1回認知症サポーター交流会
日頃の活動や思いを情報交換

令和3年1月 第2回認知症サポーター交流会(コロナ禍で中止)

令和3年4月 第2回認知症サポーター交流会
認知症あるある事例への対応①、グループワーク

令和4年1月 第3回認知症サポーター交流会
認知症あるある事例への対応②、グループワーク

認知症サポーター交流会後、毎回キャラバンメイト連絡会で振り返り、次回の方向性、内容について検討。
令和4年度より、チームオレンジコーディネーター配置。

令和4年11月 認知症サポーターステップアップ講座

情報交換の機会
があったらいいな。



認知症の人への対応
について知りたい。

認知症サポーター交流会
の様子

洲本市におけるチームオレンジ活動に向けた取り組み

<ステップアップ講座を実施して>

- ◆目的: 認知症に関する基礎知識・理解を深めるための講座を通じて、
チームオレンジの活動など、より実際の支援活動につなげる。
 - ◆対象者: 認知症サポーター養成講座修了者で2回の講座を両方受講できる方。
 - ◆内容:
 - 第1日目: 講義「認知症をもつ高齢者とのコミュニケーション」ロールプレイ、グループワーク
 - 第2日目: デイサービス、ミニデイサービスでグループに分かれて実習、グループワーク
 - ◆反応:
 - ・正面から目線を合わせて話しかけることが大切とわかった。
 - ・本人の好きなことを話題に雰囲気づくりから始める等、認知症をもつ高齢者への接し方のポイントを再確認できた。
 - ・実習で何を話したらよいかと構えていたが、高齢者の方から話しかけてくれ、一緒に楽しむことで自然とコミュニケーションが取れた。
- ⇒チームオレンジ 10名登録

洲本市におけるチームオレンジ活動に向けた取り組み

課題と今後の方向性

日々の推進員活動を通して、認知症に対する偏見がまだまだ強い地域性を感じています。

認知症の人やその家族が安心して住み慣れた家で生活できる地域づくりのため、認知症サポーターを増やしていくことが必要です。また併せてチームオレンジ活動の拠点づくりが必要です。

最後に・・・

キャラバンメイトや認知症サポーター、関係者と共にめざす方向性を共有し、丁寧にステップを踏みながら認知症の人やその家族にやさしい、誰もが過ごしやすい洲本市になるよう土台作りを取り組んでいきたいと思えます。